



NIHS特別講演会（殿町#46）

演題

注目を集める食品媒介性E型肝炎ウイルス



講師

李天成先生

国立健康危機管理研究機構

国立感染症研究所

ウイルス第二部

ご略歴

1986年中國黒竜江中医大学医学部卒（医師免許）、2000年杏林大学で保健学博士号を取得、2002年に国立感染症研究所ウイルス第二部（主任研究官）に着任。

2017年から2023年まで東京農工大学農学部・共同獣医学科客員教授併任。

原著論文は100報以上。

要旨

E型肝炎はE型肝炎ウイルス(hepatitis E virus, HEV)の感染によって惹起される急性肝炎である。HEV感染では、一部のヒトは極めて重篤な劇症肝炎まで進行することがあり、特に妊婦では劇症肝炎の割合が高く、致死率が20%にも達する事が知られている。E型肝炎による致死率は通常1~2%であるが、これはA型肝炎ウイルスによるそれに比べ10倍の高さである。E型肝炎は主に糞口経路によって伝播し、中でも飲用水の汚染が原因である場合が多い。近年、HEVはヒトだけではなく、多くの動物から分離されていた。ブタ、イノシシ、ラクダ、ラット由来HEVがヒトにも感染するのでE型肝炎は人獣共通感染症である。HEVは加熱不十分な食肉を介して伝播するリスクもあり、食中毒の原因病原体でもある。本講演ではHEVの基礎および食品衛生との関連について紹介する。

日時

2026年1月20日（火）

13:30~15:00 開場13:00

国立医薬品食品衛生研究所 3階 セミナー室3a

【お問い合わせ先】 国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部 岡智一郎
電話：044-270-6600 メール：oka-tomoichiro@nihs.go.jp